

目が離せない!AIの世界!ビジネスに生活に欠かせないツール・テクノロジーになりつつあります!

生成AIの進化スピードは予想をはるかに超えていますね!

# 現状を理解しながら 活用をすすめてみましょう!



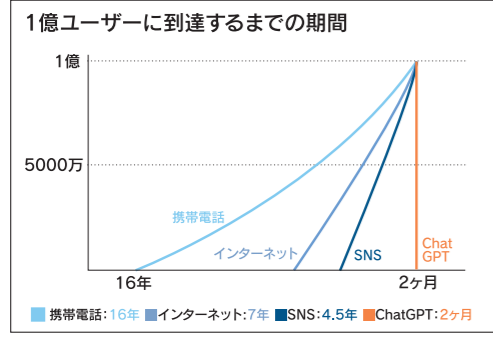
現在、日本の国内ではどのくらいの人々が活用しているのでしょうか?



## 最初にAIの歴史を振り返ってみましょう!

AI (Artificial Intelligence)	1950 年頃	人工知能	人間の知能を複製または超えることができる インテリジェントな機械の作成を目指す コンピューターサイエンスの分野
機械学習 (Machine Learning)	1959 年頃	機械学習	機械が既存のデータから学習し、 そのデータを改善して意思決定や予測を 行うことを可能にするAIのサブセット
ディープラーニング (深層学習)	2017 年頃	ディープ ラーニング	ニューラルネットワークの層を使用して データを処理し、意思決定を行う機械学習技術
生成AI (Generative AI) 大規模言語モデル(LLM)	2021 年頃	Generative AI (生成AI)	プロンプトまたは既存のデータに基づいて、 新しい文章、ビジョン、および 音声のコンテンツを作成

## ◎生成AIの出現がもたらす、歴史的なテクノロジーシフト



近年の技術進化の中でも、生成AIの出現は、これまでの産業構造やビジネスモデルを根本から変えうる、歴史的な転換点として捉えられています。

### ChatGPT

かつて、携帯電話が普及し、1億人に達するまでには16年もの歳月がかかりました。インターネットでさえ、同じ規模に到達するのに7年かかっています。その後、ソーシャルメディアの時代が到来し、XやLINE、Facebookといったプラットフォームは、その時間を大幅に短縮しました。それでも、1億人ユーザーに到達するまでには4年半かかっています。

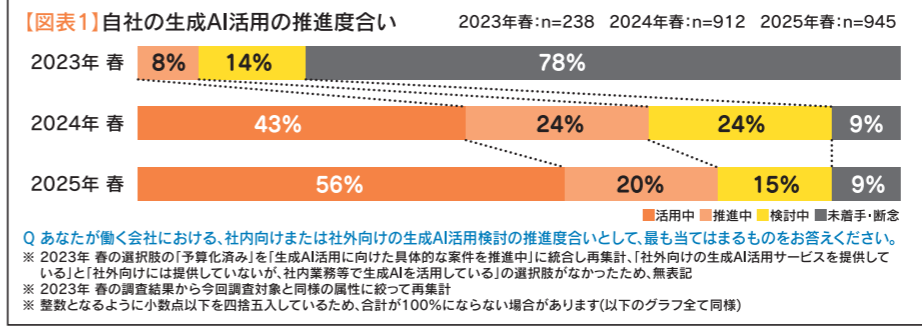


そして、今。  
生成AIの火付け役となったChatGPTは、その記録をすべて塗り替えました。  
**わずか2か月で1億人のアクティブユーザーユーザーを突破。** \*Reuters(ロイター)による報道  
これは、これまでのテクノロジーの普及スピードをはるかに凌駕する、驚異的な速さです。  
この驚くべきデータは、テクノロジーの進化がどれだけ加速しているか、  
そして私たちが今、どれほど劇的な変化の渦中にいるかを物語っています。

## 生成AI活用が広がる日本 -AI先進国のポジション-

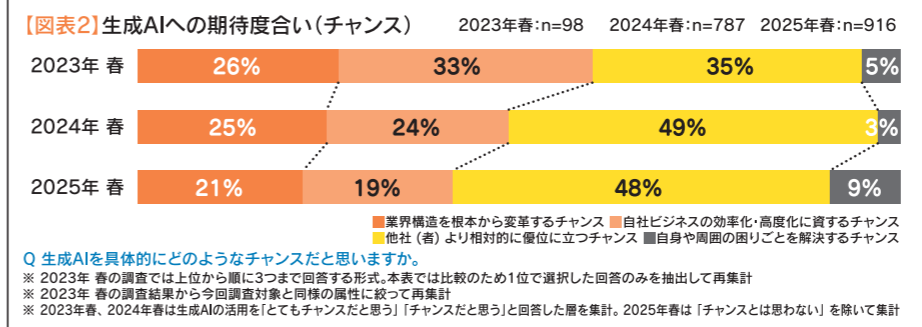
国内企業の過半数が生成AIを導入・提供するまでに拡大。  
期待の軸は「業界変革」から「業務効率化・日常課題の解決」へと移り、より実務に根ざした形での活用が進んでいます。  
コンプライアンスや文化面での意識も高まり、日本は生成AI分野で着実に先進国の一角を占めつつあります。

### 試行錯誤から本格運用へ



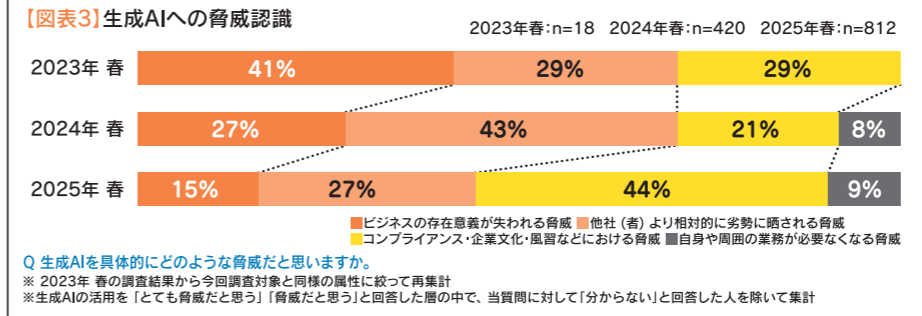
まず日本国内の状況を見ると、生成AI活用の推進度が伸び、「社内で生成AIを活用中」または「社外に生成AIサービスを提供中」と回答した層は前回調査から+13ptの56%となり、過半数を超えました。

【図表1】



生成AIの期待度合い(チャンス)については、「業界構造を根本から変革するチャンス」「他社(者)より相対的に優位に立つチャンス」が減少した一方、「自身や周囲の困りごとを解決するチャンス」が増加(前回調査から+6pt)。「自社ビジネス効率化のチャンス」と捉える層と合わせ、内向きの捉え方が過半数を占めました。

【図表2】



生成AIへの脅威認識については、「コンプライアンス・企業文化・風習などにおける脅威」が44%と前回調査から大幅に増加しました(+23pt)。チャンス・脅威とも、生成AI活用が浸透・定着してきた結果、より身近な範囲での関心にシフトしつつあるように見えます。

【図表3】

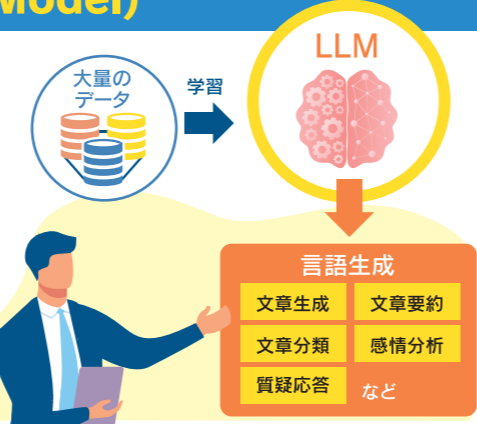
引用元:pwc社「生成AIに関する実態調査 2025春 5カ国比較」より引用 <https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/generative-ai-survey2025.html>

# 生成AIの最新キーワード5選

## ① LLM (Large Language Model)

**意味** 「膨大なビジネスケースを学習した、超一流の経営コンサルタント」のようなAIモデルです。

- POINT**
- 世界中のビジネス書や企業の成功・失敗事例など、天文学的な量のテキストデータを学習しています。
  - 情報を丸暗記しているのではなく、成功する戦略や説得力のあるプレゼンの「勝ちパターン」を無数に理解しています。
  - そのため、どんな経営課題に対しても、最も成功率の高い、もっともらしい戦略を提案できます。



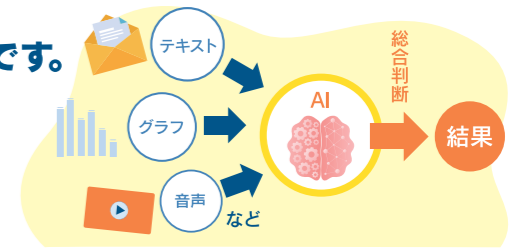
**仕組みのポイント**

**たとえ話**

## ② マルチモーダル (Multimodal)

**意味** テキスト情報だけでなく、画像や会議の音声など、複数の形式の情報を同時に理解し、処理できる能力です。

- POINT**
- 会議の議事録(テキスト)を読むだけでなく、
  - プレゼン資料の画像から傾向を読み取り、
  - 議論の音声から話のトーンやニュアンスを汲み取ります。
  - これらを統合し、より深くビジネスの状況を理解します。



**仕組みのポイント**

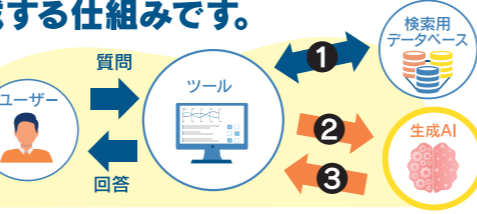
**たとえ話**

「優秀なビジネスパーソンがプレゼンを理解するプロセス」と同じです。発表者の話(音声)を聞き、スライドに表示された売上グラフ(画像)に目を配り、配布された企画書(テキスト)にメモを取る。このように複数の情報を組み合わせることで、初めてプロジェクトの全体像を正確に把握できるのと同様です。

## ③ RAG (Retrieval Augmented Generation)

**意味** AIが回答を生成する前に、社内データベースや最新のニュースといった「信頼できる情報源をまず検索し」、その事実に基づいて回答を作成する仕組みです。

- POINT**
- ① 質問を受けると、まず関連する最新情報や社内規定をデータベースで検索します。
  - ② 見つけてきた正確な情報を「ファクトシート(事実資料)」として参照します。
  - ③ そのファクトシートの内容に沿って、AIが回答を作成します。



**たとえ話** 「優秀な担当者が、顧客からの問い合わせに回答する手順」です。担当者は自分の記憶(AIの内部知識)だけで答えることはしません。まず最新の製品マニュアルや社内FAQシステム(外部データベース)で正確な情報を確認し、その内容に基づいて「弊社の製品仕様は…」と間違いのない回答を作成します。この堅実なプロセスがRAGです。

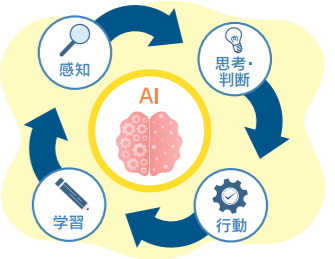
**仕組みのポイント**

**たとえ話**

## ④ AI エージェント (Agent)

**意味** 与えられた業務目標に対し、AIが自律的に計画を立て、必要なツール(アプリや他AI)を使いこなし、業務を遂行する仕組みです。

- POINT**
- 単に情報を探すだけでなく、目標達成までのタスクを自分で分解し、実行します。
  - スケジュール調整、データ分析、メール作成といった複数のアプリケーションを、人間のように横断して操作します。
  - 指示待ちではなく、自ら考えて次のアクションを起こします。



**仕組みのポイント**

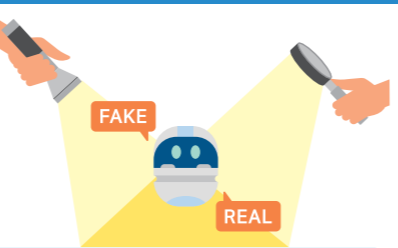
**たとえ話**

「非常に優秀なプロジェクトマネージャー」です。「来月の新製品発表会を成功させる」というミッションを与えると、彼(エージェントAI)は自らタスクを洗い出し、カレンダーアプリで会場の空き状況を確認し、予約システムで予約を入れ、CRMから招待客リストを作成し、メールソフトで招待状を自動送信するなど、一連の業務を自律的に完遂します。

## ⑤ ハルシネーション (幻覚)

**意味** AIが、事実と異なる情報を、あたかも事実であるかのように、もっともらしく生成してしまう現象です。

- POINT**
- AIは「正しさ」を保証するのではなく、「文章としての自然さ」を最優先して答えを生成します。
  - そのため、学習した複数の情報を不適切に繋ぎ合わせ、結果として「説得力のあるデタラメ」を作り出してしまふことがあります。



**たとえ話** 「自信満々に間違った数値を報告する新人」を想像してください。悪気はないのですが、複数の資料からデータを引用するうちに、古いデータと新しいデータを混同してしまい、結果として「もっともらしいが、事実とは異なる売上予測レポート」を作成してしまいます。上司に指摘されても、それらしい理屈を並べて説明しますが、元データを辿るとやはり間違っている、という状況に似ています。

**仕組みのポイント**

**たとえ話**

## AI活用への第一歩

**AIは、もう遠い未来の技術ではありません。**

あなたのすぐそばにある、可能性に満ちたツールです。難しく考えず、まずは気軽に触れてみましょう。触ってみれば、その面白さや便利さにきっと気づきます。

- ① 気軽に触る、試す**  
まずは、AIと遊ぶような感覚で、色々試してみましょう。
- ② 成功も失敗もシェアする**  
使ってみて「うまくいったこと」や「失敗したこと」を周りの人と話してみませんか。新しい発見があるはずですよ。
- ③ パーソナルな探求**  
会社のルールにとらわれず、個人的に興味のあるAIツールを試してみるのも良いですよ。あくまでも個人アカウントで。
- ④ 先入観を捨てる**  
「AIは自分には関係ない」といった思い込みを捨ててみましょう。きっと、新しい世界が広がります。

## まとめ



生成AIに関連する専門用語やトレンドは、日を追うごとに増え、メディアで目にしない日はありません。これらの言葉を一つひとつ深く理解し、暗記することは必ずしも重要ではありません。しかし、その概念を大まかに把握しておくことは、今後のビジネスを推進する上で不可欠です。表面的な知識であっても、主要なキーワードを理解することで、新しい情報への感度が高まり、**未来のビジネスチャンスを一いち早く捉えることができるでしょう。**そこで、まずは基本的な用語を整理しました。ご一読いただき、お客様の知見の一助となれば幸いです。

ぜひ、ご相談ください！  
御社のDX伴走パートナーであり続けます。

